

# 1 国語

\*\*\* 開始の合図があるまで、開いてはいけません \*\*\*

試験が始まるまで、下の〔注意すること〕を読んでおいてください。

## 〔注意すること〕

- 問題用紙のページは13ページまでです。 解答用紙が1枚あります。
- 解答はすべて解答用紙に記入してください。
- 試験時間は、45分です。
- 印刷の見えにくい場合やページがぬけている場合は知らせてください。  
そのほかの場合は、質問を受けません。
- 必要なものは、えんぴつ、消しゴム です。

※問いに字数制限がある場合は、句読点等をふくみます。

□ 次の問いに答えなさい。

問一 次の①～④の――線部について、カタカナは漢字に直し、漢字は読みをひらがなで答えなさい。

- ① この問題はむずかしくなく、ヤサしい。
- ② 本をカす。
- ③ おまじないを唱える。
- ④ 蚕を飼う。

問二 次の四字熟語の空らんにあてはまる字を入れなさい。また、その意味を後のア～オからそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。

- ① 行雲流（ ）
- ② 意気（ ）
- ③ 合（ ）
- ④ 問答（ ）
- ⑤ 用（ ）

- ア いなかの美しい風景のこと。
- イ とらわれやこだわりがない自由な心でいること。
- ウ 元気がなくてしよげる様子のこと。
- エ 話し合う必要や意味を見いだせないこと。
- オ 互いの気持ちがいびつたりと一致すること。

問三 次の①～③の――線部が修飾しゅうしやくしている部分を次のア～エからそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。

- ① いよいよ ア年に イ一度の ウ運動会が エ始まる。

- ② お母さんに いちいち ア明日の イ予定を ウ不満を エ感じる。

- ③ こんなにも アあなたが イ転校することが ウつらいとは エ思わなかった。

□ 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

西洋の伝統的な科学教育では、観察・実験を行うことや、自然の事物・現象を理解することが目的とされている。

ところが、日本の理科教育は違う。

自然科学的な教育に加えて、「自然に親しみ、自然を愛する心情を育てること」が目標に加えられているのである。

自然に親しむことや自然を愛することは、科学でも何でもない。むしろ科学的思考に反するものだ。

西洋が育んできた科学は、このような心情的なものをできるだけ取り除いて、できるだけ客観的に物事を見ることなのである。

しかし、これこそが①日本人が培ってきた自然観であり、日本の理科教育の誇るべき点であると私は思う。

西洋の科学と日本の理科は同じではないのである。

キリスト教では、神が植物を創り、動物を創り、家畜を創り、そしてその支配者として人間を創った。動植物などの生き物たちと、人間は別である。

しかし、日本では人間は自然の一員である。神さまさえも自然の一員である。

だとすれば、動植物はもちろん、小さな虫でさえも、同じ自然の一員である。これが日本人の自然の捉え方である。

「一寸の虫にも五分の魂」という言葉がある。

この言葉は、虫にさえ魂があるように、Aという  
意味である。弱い人間を大切にしようということわざに「虫にさえ魂

があるのだから」と虫を出してくるのはすごい。

シヨウリヨウバツタというバツタがいる。チキチキと音を立てて飛ぶことからチキチキバツタとの別名もあるこのシヨウリヨウバツタのシヨウリヨウは、漢字では精霊と書く。シヨウリヨウバツタは、先祖の霊の化身であったり、先祖の霊の乗り物であると考えられていたのである。

お盆のころに現れる赤とんぼは、別名を「精霊とんぼ」という。赤とんぼもまた、先祖の霊であったり、先祖の霊を運んでくるものであると考えられていたのである。

確かに非科学的な話である。

a、人間も虫や植物と同じ生物であることに、何の変わりもない。

もしかすると、人間も他の動植物も同じであるという日本的な見方のほうが生命科学の真実に近づける部分もあるのではなからうか。

日本には身近に愛すべき小さな生き物たちがいることも、日本人が小さな生き物を愛することの一因になっているかもしれない。

ヨーロッパでは生き物の種類が少ない。  
たとえば、同じ島国であるイギリスと比較してみると、日本の植物

数は約五三〇〇種で、そのうち日本にだけ生息している固有種が約一八〇〇種ある。これに対して、イギリスは植物が約一六〇〇種、そのうち固有種がわずか約一六〇種である。また、魚類は、日本は約三八〇〇種、うち固有種が約四〇〇種であるのに対して、イギリスは約三〇〇種で固有種はゼロである。  
ヨーロッパでは古くから自然破壊が進んだということもあるが、日

本はそれだけ自然が豊かで生き物の種類もともと多かつたろうし、さらには自然が豊かであったから自然破壊が進まなかったという面もあるだろう。

ヨーロッパの\*1カントリーファームな生活を描いた絵には、さまざまな生物が登場する。たとえば、ピーター・ラビットに代表されるウサギがいる。ウサギを狙うキツネもいる。b、ミツバチマーヤに登場するミツバチもいる。あとは、よく描かれるのは、「はらぺこ青虫」の絵本で知られるイモムシやチョウの類だろうか。そして、牧場には、牛がいて、馬がいて、鶏やアヒルがいる。

「生物多様性」という言葉がある。最近では②農村地域の「生物多様性」が話題になることも多い。ところが驚くことに、ヨーロッパで生物多様性というときには、牛や馬などの家畜も含めることが多いのである。

どうしてか。それは生物が少ないからである。確かに牛や馬にもいろいろな品種がある。特に、その地域で守られてきた伝統的な品種は、他の生物と同じように守るべき貴重な遺伝資源である。

しかし、日本の農村で生物多様性という場合には、家畜を含める感覚はないだろう。そんなものを数えなくても、農村にはありとあらゆる種類の生物がいるからである。

農業はわれわれの生存に欠かせない食糧を供給してくれるが、一方で自然破壊である。これは日本でも同じである。

たとえば、日本の農村には「田んぼ」という環境がある。美しい田んぼの風景を見ると、私たちは自然を感じて癒されるが、よくよく

考えてみると、田んぼという環境は自然ではなく人間が作り出したものだ。

たとえば、一面の緑を演出するイネは人間が改良した作物であるし、すべてのイネは人間が植えたものである。野の花が咲き乱れる畦道も、人間が水をためるために作ったものだ。そして、メダカやドジョウが泳ぐ小川は、田んぼに水をためるために人間が引いたものであるし、そうやって人工的な作業を駆使して作り上げて水をためたのが、田んぼという環境なのである。

しかし、③そんな田んぼにも、たくさんの生き物がいる。

田んぼを棲みかとする生き物は、五〇〇種を超えるであろうと言われている。どうして、人工的な環境である田んぼに、そんなにもたくさんの生き物がいるのだろうか。

豊かな森の自然は生物が棲むのに適しているが、そこでは激しい生存競争が繰り広げられる。植物でいえば、強者である大木などは生い茂り、小さな野の花などは生存できないのである。もちろん、これがダメというわけではない。生存競争が行われる適者生存の世界こそが、本来の自然である。

一方、人の暮らす里や野山では草刈りが行われたり、田畑が耕されたりする。このような行為は、一見すると自然を破壊しているように思えるかもしれない。しかし、日当たりの良い明るく開けた環境が作られ、強い植物がはびこるのを防ぐので、多くの小さく弱い野の花たちにとっては生存のチャンスが生まれるのである。こうして、農村では多くの植物が生えるようになるのである。そして、農村に生える弱い植物が、タンポポやスミレなどの身近な植物なのだ。

同じように、農村には本来の自然界では生きる場所が少ないような

「弱い生き物」たちが集まる。それらが私たちに身近なカエルやトンボ、ドジョウ、メダカ、ホタルなどの生き物たちなのである。

草刈りをしたり田畑を拓いたりするのはある意味自然破壊だが、そのおかげでできた **B** 的な田畑の環境には、新たな弱い生き物たちによって新たな生態系が作られるのである。

このようにして人間が作り出した自然は「二次的自然」と言われる。

一次的自然は、もともとそこにある原生的な自然である。これに対して二次的自然は、一次的自然が破壊された後に成立した自然をいう。一般的には、火山活動などによって一次的自然が喪失した後に成立するような自然が二次的自然と呼ばれている。しかし、人間によって破壊された後に成立した自然もまた、二次的自然としての性格を有しているのである。

映画「もののけ姫」では、「シシ神の森」と呼ばれる深い森が描かれる。これが一次的自然である。しかし、物語の中で森は失われるが、物語の最後のシーンでは、野の花が咲き乱れるような明るい草原が復活する。この草原が二次的自然なのである。

トンボやカエル、ホタル、メダカなどの田んぼの生き物たちは一次的自然のような深山幽谷には棲むことができない二次的自然の生き物である。

④ このように、日本の農業には、環境の破壊者でありながら豊かな二次的自然を創造するという面もあるのである。

(稲垣栄洋『雑草と日本人』による／一部改変)

〈注〉

\*1 カントリーファームな：田園の風景にみられるような、落ち着いた雰囲気、という意味。

問一

**a**・**b** に入る語として最も適切なものを、次のア～オからそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。

- ア** しかし      **イ** なぜなら      **ウ** だから  
**エ** ところで      **オ** あるいは

問二

——線部①「日本人が培ってきた自然観」とありますが、どういう考え方ですか。次の文の( )にあてはまるように本文中から十五字以内でぬき出しなさい。

( 十五字以内 ) という考え方。

問三

**A**には、「二寸の虫にも五分の魂」という言葉の説明が入ります。その内容として最も適切なものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 幼い子どもであっても、きちんとした考えを持っているが、それを主張することは難しい
- イ 小さくて弱いものにも、それ相応に意地や考えがあるのだから、決してばかにできない
- ウ いくら力が弱いといっても、怒ると集団で仕返しをするから、注意することが必要だ
- エ 人間以外の生き物であっても、同じく自然を構成する一員だから、尊重されなければならない

問四

——線部②「農村地域の『生物多様性』とありますが、筆者は文章中で、生物多様性についてどのように述べていますか。「ヨーロッパ」「日本」という言葉を用いて、六十字以上、八十字以内で説明しなさい。

問五

——線部③「そんな田んぼにも、たくさんの生き物がいる」とありますが、田んぼにたくさんさんの生き物が棲みつくようになるのはなぜですか。五十字以上、六十字以内で答えなさい。

問六

**B**に入ることばとして最も適切なものを、本文中からぬき出しなさい。

問七

——線部④「日本の農業には、環境の破壊者でありながら豊かな二次的自然を創造するという面もある」とありますが、どういうことですか。最も適切なものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア** 日本では、食糧を供給するために一次的自然を人間の使いやすいように壊す一方で、それが野の花や小さな生物を育むことにつながっているということ。
- イ** 日本の農業は、田んぼにみられるように自然を改良した環境で作物が育つが、私たちはその改良された風景に対してなつかしさを感じているということ。
- ウ** 日本の農村にたくさん生き物が生息しているのは、森林を壊して多様な生き物が棲みつくように工夫した結果で、西洋よりも進んでいるということ。
- エ** 日本には、人間の生存に欠かせない食糧をつくり出す重要な一次的自然がある一方で、それを改良した田んぼにも多くの生き物が住んでいるということ。

問八

本文の内容について述べたものとして、最も適切なものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア** 西洋のものではなく、日本的な自然観だけが、生命科学を解き明かすのに適している。
- イ** ヨーロッパの中でも、イギリスは日本と同じ島国であるので独自の豊かな自然を有している。
- ウ** 本来の自然は、強い者と弱い者が協力して生態系を作っており、豊かさを保っている。
- エ** 二次的自然とは、一次的自然が自然現象や人間の手で破壊された後で成立したものをさす。

三 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

中学二年生の大久保慎吾は右ひざの痛みが悪化により、一年生の終わりにバスケットボール部を退部した。現在は部活をしていないが、同級生の一人から吹奏楽部への入部のさそいを受け、一度吹奏楽部の見学に行っている。

翌週の放課後、教室で日直の仕事をしていたら、高城くん話しかけられた。

「大久保、また吹奏楽部の見学にこないか？」

① あつ、きょうは用事があつて……」

ぼくは反射的に嘘をついていた。高城くんは「そうか、じゃあしかたないな」と残念そうに教室を出ていった。

結局ぼくが吹奏楽部の見学に行ったのは一回きりだ。何度も見学に行ったら、入部を断れなくなりそうな気がして不安だった。たのしそうな部だな、とは思ったから、去年のぼくだったら入部を決めていたかもしれない。けれどいまのぼくにはもう、その勇気がなかった。

書き終えた日誌を職員室に届けて廊下に出ると、そこでぼくはまた辻井先生に会った。あいさつだけしてすれ違おうとすると、「さういえば」と辻井先生がぼくを呼び止めた。

「大久保、吹奏楽部には入部することにしたの？」

「いえ、まだ迷ってるんです。② あんまり自信がなくて……」

急に尋ねられたせいか、思わず本音がこぼれてしまった。ぼくのその返事に、辻井先生が首を傾げて聞きかえしてくる。

「未経験者だからってこと？ それなら新入生といっしょに丁寧に教えてくれるだろうから、心配はいらないと思うけど」

「未経験者っていうのもあるんですけど、それよりぼくは、バスケット部も辞めちゃったから」

「バスケット部はべつに辞めたくて辞めたわけじゃないでしょう」

「それは、そうだと思うんですけど……」

ぼくは **A** 切れの悪い声でこたえてうつむいた。

ほんとうにそうなんだろうか。もともと辞めたいと願っていたから、脚の故障を理由にして退部したんじゃないだろうか。

それがわからないから、ぼくは自分を信じられなくなっていた。

吹奏楽部に入部しても、思うようにうまくなれなかったら、ぼくはまた逃げだそうとするかもしれない。いや、きっとそうなる気がする。ぼくはたぶん、そういうやつだから……。

自分に嫌気が差して、ぼくが制服のひざを見おろしていると、辻井先生がふいに尋ねてきた。

「退部してから、バスケット部の仲間には会った？」

「いや、なんとなく会いづらくて……」

「そういわずに、たまには顔を見せてやったら。きょうの六時間目、三年生は臨時の学年集会だったんだけど、それがまだ長引いてるみたいだから、いまなら先輩と顔を合わせずに部の仲間と話せるよ」

そう告げる辻井先生の顔には、滅多に見せないやさしい笑みが浮かんでいた。けれどぼくが驚いていると、すぐにその笑顔を引っこめて、「それじゃあ」と職員室に入っていくってしまう。

職員室の戸が閉められたあとで、ぼくはバスケット部のみんなが練習をしている体育館のほうを振りかえった。

体育館の床で、バスケットボールが弾む音が聞こえてくる。部活を辞めてまだ半月ちよつとしかたつていないのに、ぼくにはその音がやけに懐かしく聞こえた。

放課後の体育館を訪れるのは、退部のあいさつをしにいったとき以来だった。まだバスケット部のみんなと話をする決心がつかなくて、ぼくはこっそり体育館の中をのぞいてみた。

体育館の中では、バスケット部がすでに練習を始めていた。雅人も、バリーも、もっさんもいる。残りの部員は全員新入生だ。すごい、八人もいるじゃないか。これなら三年生が引退しても、部員不足に悩むことはなさそうだ。

雅人がおもしろいことをいったのか、一年生たちが笑いだした。雅人、愉快ない先輩をしてるみたいだな。ぼくが退部する前は、新入部員の指導なんてめんどくさいとかいつてたのに。

先輩らしく振る舞っている仲間の姿をながめているうちに、ぼくはたまらなく寂しくなった。もうこの放課後の体育館に、ぼくの居場所はない。

様子を見にきたりなんてしなければよかった。その後悔しながら、**③** ぼくはその場を立ち去ろうとした。ところがそのとき、姿の見えなかったもうひとりの二年生部員の満が、ちょうど体育館にやってきた。用事があつて遅れたんだらうか。満はまだ制服姿で、ぼくを見て驚いた表情を浮かべていた。

「やつぱり慎吾か。こんなところのぞいてないで、中に入ればいいのに」

「いつ、いや、練習の邪魔をしちゃ悪いと思って……」

「そんな気を遣うことないだろ。おい、慎吾がきてるぞ！」

満が体育館の中に向かって声をかけると、すぐに雅人が飛んできた。もっさんとバリーもそのあとから駆けてくる。

「慎吾、この薄情者！ たまには顔見せろよなあ。寂しいだろ！」

「ご、ごめん。けど、退部したのに練習に顔を出すのは気が引けて……」

「**B** 大きいこというなよ。とにかく中入って」  
遠慮する暇もなく、ぼくは体育館の中に連れこまれてしまった。

体育館のステージにみんなと輪になって座ったものの、どんな話をしたらいいかわからず、ぼくはミニゲームをしている一年生たちを見ていった。

「新入部員、たくさん入りそうでよかったね」

「おう、勧誘頑張ったからな。それより慎吾は最近どうなんだよ。おまえのクラス、担任\*<sub>2</sub>チャラ井だろ。あの人ちゃんと担任とかやれるの？」

「まあ、思ったよりちゃんとやってくれてはいるんだけど、やつぱり辻井先生のほうがよかったなあ」

それからぼくたちは自分のクラスのことや最近のできごとについて話をした。ぼくがまだバスケット部にいたころの、練習前や休憩時間とおなじように。

なのにぼくは仲間たちとのあいだに、これまでではなかった距離を感じていた。それはきつと、ぼくがみんなに隠していることがあるから。そしてみんながぼくに気を遣ってくれているからだ。その証拠に、**④** ぼくの脚や退部のことには、だれも触れようとはしない。

しばらく話したところで、ふいに会話が途切れた。一年生がスリポイントシュートを決めて歓声をあげた。ぼくがそっちに注目する

ふりをして、気まずさをまぎらわせていると、満が「慎吾」と話しかけてきた。不安をこらえるような、硬い表情で。

「おまえの脚のことを聞いたときから、謝らないととずっと思ってたんだ。成長痛だろうなんて適当なことをいって、ほんとうに悪かった。あのときすぐに病院に行くようにすすめてれば、部を辞めなくてすんだかもしれないのに……」

「えっ、そんなの謝ることないよ。ぼくだって、自分の脚が退部しなきゃいけないほどひどい状態になってるなんて思ってもいなかったんだから」

慌ててそういいかえしても、満の顔は晴れなかった。満だけじゃなくて、ほかのみんなもおなじように沈んだ顔をしていた。

バリーがおずおずとぼくにいった。

「けどよお、慎吾、最近ずつとおれらのことを避けてたろ。だからやつはそのことで怒ってんじゃないかと思つてよお」

「誤解だよ！ ぼくがみんなと顔を合わせづらかったのは、ただ、

⑤ バスケット部を辞めたことがうしろめたかったからなんだ」

口にした瞬間に、いつてしまった、と思つた。うろたえているほかに、バリーが首を傾げて聞きかえしてきた。

「なんでだよ。退部は脚のせいなんだからしょうがないだろ。うしろめたさなんて感じる必要ないじゃん」

ほんとうのことを、正直に話さなくちゃいけない。たとえみんなに軽蔑されたとしても。そうしなければ、きっとこれからみんなに、ぼくのことと責任を感じさせてしまう。

仲間たちの視線から逃れてうつむくと、ぼくはおそろおそろそのことを明かした。

「たしかに、脚のせいなんだけどさ。親とか医者に退部をすすめられたとき、ぼくははっきり嫌だつていわなかったんだ。続けようとしていけば、続けられたかもしれないのに。だからもしかするとぼくは、心の底でバスケット部を辞めたがってたのかもしれないって、そう思ってるんだよ。いくら練習してもみんなみたいにくまくなれないから、それがつらくて部活から逃げたんじゃないかって……」

言葉を終えたあとも、ぼくはみんなの反応が怖くてうつむいたままだった。ぼくがびくびくしながら沈黙に耐えていると、満が最初に口を開いた。

「慎吾はそういうことはしないだろう」

⑥ それはまるで、ぼくがなにかおかしいことをいつたかのような口調だった。驚いて顔を上げると、満は明らかに戸惑った表情を浮かべていた。

雅人が「だよな」と相槌を打つてぼくの顔を見た。

「おまえ、本気でそんなこと気に病んでたのかよ。おまえみたいに真面目で練習熱心なやつが、まだ頑張れるのに怪我のせいにしてあきらめたりするわけないだろ」

バリーともっさんもしきりにうなずいていた。その反応を目にしたとたん、⑦ 胸の底から熱いものがこみあげてきた。

正直、ぼくはみんなのことを疑っていた。あいつは怪我を理由にしてバスケット部から逃げた。そう思われているんじゃないかと想像して怖かった。

だけど、そんなことはなかったんだ。ぼくはずつと自分の本心を疑い続けていたのに、みんなはいまでもぼくのことを信頼してくれていたんだ。

ありがとう、とぼくは心からみんなに感謝した。なにいつてんだよ、と雅人が茶化すようにぼくの肩を揺さぶってくる。

「……もつとみんなとバスケットをしたかったな」

みんなの顔を見ていたら泣いてしまいそうで、ぼくはステージの床を見つめてつぶやいた。退部から半月以上がたつてようやく、<sup>⑧</sup>ぼくは自分のほんとうの気持ちに気がついた。

(如月かずさ『給食アンサンブル2』による)

〈注〉

\*1 辻井先生：慎吾の前年度の担任の先生。

2 チャラ井：慎吾の今年度の担任の先生。

問一 — 線部①「あつ、きょうは用事があつて……」と返事をし

たときの「ぼく」の気持ちを説明した一文を本文中からぬき出し、はじめの五字を答えなさい。

問二 — 線部②「あんまり自信がなくて……」とありますが、こ

のとき「ぼく」はどのようなことを考えていますか。最も適切なものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 今から吹奏楽部に入部すると、新入部員は二年生の自分のほかはみな一年生なので、その一年生たちと仲良くやっていたらいいかと思っています。

イ バスケットボール部を途中で退部するような自分は、吹奏楽部に入部してもうまくいかなければまた辞めてしまうのではないかと考えている。

ウ 吹奏楽は未経験だから、これから吹奏楽部に入部しても上達するのに時間がかかり、ほかの部員の足を引っ張ってしまうのではないかと考えている。

エ 一度吹奏楽部の見学に行ったときにはたのしそうだがと思ったので、そのような雰囲気にならないうちに上達するためのきびしい練習ができるだろうかと思っています。

問三 

A
---

・

B
---

 にあてはまる語をそれぞれ漢字一字で答えなさい。

問四 文章中の登場人物の一人である辻井先生は、どのような先生だと考えられますか。最も適切なものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 吹奏楽部の顧問であり、見学に来た生徒を入部させようと積極的に声をかける先生。

イ 生徒のことをもつとよく知りたいという気持ちが強く、生徒に声をかけてはたくさんの質問をする先生。

ウ 普段めつたに笑顔を見せることはないが、悩んでいる様子の生徒を気にかけ、声をかけてあげる先生。

エ なかなか行動を起こさない消極的な生徒を見るともどかしく感じ、声をかけて行動を起こすよう励ます先生。

問五 — 線部③「ぼくはその場を立ち去ろうとした」とありますが、このときの「ぼく」の気持ちとして最も適切なものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 連絡なしでいきなり体育館に来たので、練習の邪魔をしたから悪いと遠慮する気持ち。

イ 久しぶりに部活の練習に顔を出したので、仲間は何と声をかけたらいいかたためらう気持ち。

ウ 脚を故障している自分が体育館にいても何もすることができず、つまらないという気持ち。

エ 新入部員に対して先輩らしく振る舞う仲間たちを見て、自分一人だけ取り残されたような気持ち。

問六 — 線部④「ぼくの脚や退部のことには、だれも触れようと

はしない」とありますが、その理由を説明した次の文の□にあてはまる内容を、二十字以上、三十字以内で答えなさい。

みんなは、□と思っているから。

問七

——線部⑤「バスケット部を辞めたことがうしろめたかった」とありますが、「ぼく」がバスケットボール部を退部したのをうしろめたく思っている理由を説明した次の文の **1**・**2** においてはまる内容を、それぞれ二十字以上、三十字以内で答えなさい。

「ぼく」がバスケットボール部を退部したのは、**1** からはではなく、本当は **2** からののではないかと考えているから。

問八

——線部⑥「それはまるで、ぼくがなにかおかしいことをいったかのような口調だった」とありますが、満はなぜこのような口調になったのですか。最も適切なものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア** 慎吾の脚について適当なことを言ってしまったことを気にしており、慎吾は悪くないと感じたから。
- イ** 脚を故障して部活を辞めてしまった慎吾をかわいそうに思い、どうにか慎吾を上げましたかったから。
- ウ** 真面目で練習熱心なはずの慎吾から自分はひきょう者だという内容の発言を聞いて、違和感を覚えたから。
- エ** 慎吾が自分たちのことを怖がっていると感じ、なぜそんなに怖がっているのかと不思議に思ったから。

問九 — 線部⑦「胸の底から熱いものがこみあげてきた」について、後の問いに答えなさい。

(1) このときの「ぼく」の気持ちとして最も適切なものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 怒り いか      イ 疑い      ウ 感動      エ 恐怖 きょうふ

(2) 「ぼく」が(1)のような気持ちになった理由が述べられている部分を、次の説明にあう形で本文中から四十字以上、五十字以内でぬき出し、はじめと終わりの五字を答えなさい。

( 四十字以上、五十字以内 ) ことに気づいたから。

問十 — 線部⑧「ぼくは自分のほんとうの気持ちに気がついた」とありますが、どのようなことに気づいたのですか。五十字以上、七十字以内で答えなさい。

① しい

② す

③ える

④

問二 ① 行雲流 ( ) 意味

② 意気 ( ) 合 意味

③ 問答 ( ) 用 意味

問三 ①

②

③

問一 a

b

問二

問三

問四

問五

問六

問七

問八

問一

問二

問三 A

B

問四

問五

問六

問七 1

2

問八

問九 (1)

(2)

5

問十

名前

受験番号

	十	一九	八	二七	一七	六	四	一	六	五	四	二	一	三	二	一
		二九					五					三				